

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970500484		
法人名	社会福祉法人久寿福祉会		
事業所名	グループホームおしはらの里		
所在地	栃木県鹿沼市縦山町40番地2		
自己評価作成日	令和2年11月10日	評価結果市町村受理日	令和3年2月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和2年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内に中庭があり、四季折々の景色が味わえます。又、中庭やベランダを学童保育・デイサービスと共有しており、交流もあります。自立支援介護の内容に基づいた支援を提供しており、目標水分摂取量1500ccやトイレでの排泄、食事形態常食常菜の維持、可能な限りの歩行に努めています。離職率が低く働きやすい環境作りにも努めています。コロナウイルス感染拡大前は外出にも力を入れており、近場のドライブから他県への御利用者の思いに添った日帰り旅行やフラワーパークのイルミネーションまで様々な場所へ行くことができていました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は鹿沼市例幣使街道沿いにあり、近くには小学校やスーパーマーケット・ドラッグストア・コンビニエンスストア・駐在所・住宅があり利便性の良い所に位置している。隣接のデイサービスセンターや学童保育の建て屋に囲まれた中庭は広く、桜や梅の木その他、様々な木々があり散歩やイベントが開催出来るようになっている。事業所のバーベキュー行事には地域の方を招待するなど地域の住民との交流の場にもなっている。敷地内の畑で作られた多種類の野菜は利用者の食卓に提供され季節感を味わってもらっている。事業所の外側には屋根付きの広く長いウッドデッキのベランダがあり、10メートルごとに目印があり雨天時の散歩にうってつけのコースになっている。排泄の自立支援にも力を入れてきめ細かな工夫をしてトイレ誘導を行いオムツの使用枚数も少なくなる支援をしている。職員同士のコミュニケーションがよくとれており、学習会も小まめに開催するなど職員のスキルアップにも力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に、より浸透するように理念を3つに絞り職員一同共有し実践につなげている。	職員アンケートをとり簡潔に3項目にまとめた事業所理念を事務所内に掲げている。同様に各ユニット目標も毎年度職員みんなで作っている。これらは会議や勉強会、日々の業務において管理者、職員で確認し合い、共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、年2回の地域清掃に参加している。また、行事を通し近隣住民を招き交流の場を設けていましたが、コロナウイルス感染拡大後は地域清掃及び行事を中止している。	地域の清掃活動に参加したり、近所の方と敷地内の畑での会話や、スーパーマーケット店員との会話、地域住民を招いてのバーベキューなど、地域との交流を日常的に行っている。コロナ禍により地域との交流が困難になってきているが、事業所の中庭では隣接の学童保育の子供達の姿を観ることが出来る。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事や会議などを通して町内の方々に現状の報告や支援等を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催している。利用者の動向、活動状況、研修や学習会の内容の話し合いを行っている。	運営推進会議は家族・自治会長・市担当者・駐在所の参加で開催しているが、現在はコロナ禍により紙面会議にしている。議題は、研修や災害、利用者の介護についての家族への報告のほか、事業所の活動状況や今後の予定、寿司パーティーの様子等の報告など計画的に設けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が窓口となり、市との連絡や相談をしている。	市の対応窓口が絞られており、相談し易い環境にある。市担当者とは運営推進会議での来所時やメールや電話で連絡が行えている。コロナ禍での運営推進会議の開催方法の相談でも助言いただくなど協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を作り、話し合った内容を基に身体拘束になりうる対応方法を全体の会議で改めて話し合い意識と理解の向上に努めている。	2ヶ月に1回身体拘束をしない委員会を開催している。委員会が出た意見は全職員に伝え共有している。また、様々な事例をもとに、拘束となる原因を作らないよう対応方法を職員全体で話し合うなど身体拘束をしないケアに事業所として取り組んでいる。玄関施錠はせず、デイサービス・学童保育スタッフも含めて利用者の見守りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で虐待が無いよう日々身体の確認は勿論、精神的な安定に努めている。		

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人がついている方が入所されている為、関わりを持つ事でよりいっそう理解出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より重要事項説明書と契約書により十分な説明を行い、書面による契約を結んでいる。随時不明な点があれば説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々傾聴に努め、家族の面会時など話し易い環境作りに努めている。運営推進会議において意見や要望を受けている。	家族面会時に職員やケアマネジャーはよく話を聞くよう雰囲気作りに努めている。外出支援に関する質問なども多い。質問や意見要望に対しては家族の理解が得られるように話し、それらを介護計画など運営に反映させるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々職員からの意見を状況に応じて反映していくことに努めている。	管理者は職員と年3回面談を行い、他に必要であればその都度面談を行っている。ユニット内では主任が職員の意見提案等に耳を傾けており前向きな対応が行われている。連絡ノートや意見ノート(思いのノート)が置かれ、職員が自由に記入したり提案も行えるようにしている。寿司パーティも運営に反映された1例である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の意見交換や定期的な面談を行い働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	課題を明確にすることでチームで解決や改善に取り組み、個人の視野を広げスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修参加により他事業所職員との交流を行っている。		

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設に入ること慣れない不安や戸惑いもある事が予想される為、積極的に関わりを持ち、話し易い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所後それぞれに様々な疑問や思いを抱くことが予想される為、相談し易い関係が早く作れるよう会話の中から家族の思いを理解するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に家族の要望を伺っておくことで家族が望む事を理解し、本人の生活に無理の無い範囲で要望を取り入れている。本人の要望は、生活の中でその都度伺い対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人を理解する事で関係を構築し、不快な感情が少なく暮らせるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を家族に伝えその都度意向を伺い、家族と共に本人を支援できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや日帰り旅行で利用者の馴染みの場所を訪れるよう支援してきたが、コロナウイルス感染拡大に伴い現在では対応を中止している。	家族面会を利用するなどして家族とのつながりを途切れないようにしている。昨年は利用者が2年越しに要望していた遠方のあじさいを観るため、日帰りドライブの支援をした。理・美容師にも万全の感染予防対策をとって来て貰って対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その都度環境や状況を変化させ、出来る限り利用者同士が不満なく過ごせるよう工夫している。また、関係が良好に保てるよう必要に応じて職員が間に入り対応している。		

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後、次のサービスを円滑に利用できるよう情報交換等連携し対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設での生活に望むことを伺い、ケアに活かしている。困難な場合は不自由を感じず安心して暮らせるよう工夫している。	利用開始時、家族から情報を聞くほか、1か月くらいかけて本人と接し、思いや意向の把握に努め、プランも作り直している。職員は夜勤時や入浴時の何気ない会話や、困難な利用者にはいろいろなやってみよう中から何をやりたいか等を探す工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前家族に、自宅での様子やサービス利用時の様子等伺い、できる限り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者1人ひとりとの関わりを多く持ち、職員間で情報を共有する事で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の質向上に向け担当者を中心に職員、家族、本人から意見を聞き介護計画を作成している。	協力医や歯科医、本人・家族、職員の意見を聞き、ニーズチェック表や生活記録を参考の上モニタリングを行い、ケアマネジャー中心として現状に即した介護計画を作成している。見直しは6ヶ月であるが、身体状況等に応じ見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、連絡ノート、モニタリング、ニーズチェック等記録により情報共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望によりサポートサービス、マッサージの利用があったが、現在はサポートサービスのみ利用している。今後も要望があれば取り入れて行きたい。		

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年は外出等多く取り入れていたが、今年はコロナウイルス感染拡大の為外出出来ない。今後状況に応じて外出を取り入れ、地域との繋がりを絶やすことの無い様に支援したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族・本人の希望を大切にしている。入所途中かかりつけ医の変更申し出があれば、その理由等相談しながら適切な医療を受け続けられるよう支援している。	事業所としてかかりつけ医の継続利用を勧めている。毎月末協力医の往診を利用している方もいる。家族付き添いの通院には主治医との連絡用紙を持参して貰い、時には職員も同行するなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に毎日の様子を伝え、情報共有している。また、処置や受診について指示を受けた場合対応、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	面会や情報など共有し、安心して治療を受けられるよう支援している。退院前に医療機関と情報交換し介護職も安心してケア出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けた方針をホーム内で共有し家族とも早い段階から話し合いをしている。重度化した場合、話し合いを重ね、ホームとして出来ること、出来ないことをきちんとお伝えしている。	利用開始時に重度化や終末期について事業所の方針を十分に説明している。ケアマネジャーは、重度化した場合には話し合いをまめに行い、事業所として出来ること、出来ないことを家族に伝え、方針の共有に努め事業所として、利用者が納得のいく終末期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応、応急処置、AED使用方法など職員全員で定期的に研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2～4回の避難訓練の他、消防署や市職員と連携をとり災害時対応マニュアルを作成し職員間で共有している。運営推進会議を通し自治会及びご家族に周知して頂いている。	これまで年4回避難訓練を実施していたが、今年度は新型コロナウイルスの影響下で隣接のデイサービスセンターと合同での2回になった。消防署には届出提出時や電話等で相談し助言をもらうようにしている。また、災害時の地域の方の協力呼びかけを運営推進会議を通してお願いしている。火災や水害時の避難場所や誘導順番も職員間で確認をしている。	当事業所は日常において地域住民との交流が行われており、災害時の地域の協力について、すでに運営推進会議を通じてお願いをしている。今後さらに近隣の方の訓練参加を含め、災害避難時の地域との協力体制の構築推進を期待したい。

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人として言葉のABCを基本に、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	基本的な言葉遣いをまとめたプリントを法人で作成し、職員はこれを共有し、利用者の個々の人格を尊重してプライバシーを損ねないように丁寧な言葉遣いで言葉かけするなど対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけの方法を工夫し、利用者が分かり易く答え易くする事で話し易い環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間は一定としているものの、その他の時間は利用者の同意を得てから対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日違う衣類を着用して頂いている。選べる方は本人に選んで頂いている。季節に合わせて衣替えは家族、職員で対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	原則管理栄養士の指示通りの物を提供しているが、行事には予め利用者から希望を聞き対応している。利用者には準備や片付けの他、行事の企画にも加わって頂き職員と楽しみを共有している。	献立は隣接のデイサービスセンターの管理栄養士が作成し、昼食も同センターで作っている。行事食は利用者の要望で好みの物や敷地内の畑の物を使用したり、時には家族から食材をいただき楽しい食事を提供している。利用者はテーブル拭きや片付けも職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指示の下、栄養バランスを維持している。水分摂取量が把握出来るよう水分表を用い確認、確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々職員が口腔内の確認を行っているが、口腔内の清潔保持は難しく歯科医師指導の下対応している。9月から口腔衛生管理体制加算を取得し一層口腔衛生の向上に努めている。		

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握する事でオムツの使用枚数を減らす、又は大きさを小さくする取り組みを行っている。適切に対応出来た日においては日中のオムツ廃棄枚数0枚の日も見られている。	排泄表で個人の排泄パターンを把握し、タイミングを見計らってトイレ誘導したり、水の音で尿意を刺激しトイレでの排泄につなげたり排泄の自立に向けた支援をしている。結果、パットやオムツの使用枚数減にもつながっている。夜間のポータブルトイレ使用にあたっては見守り支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前の飲むヨーグルトや牛乳の摂取、朝食時にカスピ海ヨーグルトやバナナの摂取をして頂いている。全員の排便の時間を把握しトイレで気持ちよく排便が出来るよう対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員がある程度均等に入浴出来るように支援しているがその日の状態や希望により前後し対応している。異性の職員が対応することに抵抗のある利用者の対応は、同性の職員が対応している。	一日に2~3人午前・午後で対応している。通院前に入る方など希望の時間帯にも対応し、利用者の要望で同性職員による介助の対応もしている。季節の入浴剤やゆず湯を使用し楽しめる入浴支援をしている。さら湯が好みの方や湯温の要望にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	要望に添い自由に生活して頂いている。要望の発信が困難な方においては常に状況を観察し、状態に応じて勤務者で相談し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	連絡帳や処方箋の活用は勿論のこと、薬の効果や副作用を把握する事で看護師や医療機関との連絡を取り、その都度薬の見直しを行っている。また、業務の合間に職員間で薬の話をする事で薬の知識が曖昧にならぬよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々外出や希望する活動を安全な範囲で行って頂いていたが、コロナウイルス感染拡大後はユニット利用者の好物である寿司を施設内で召し上がって頂き楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年まで夜のイルミネーションを見に、利用者4名家族に了承を得た上で足利フラワーパークまで外出している。その他ドライブや外食を日々の生活の一部に取り入れていたがコロナウイルス感染拡大後は外出を控えている。	中庭が広く歩き易いように整備されている。日々ドライブや外出・外食を楽しんだり、近くの小学校で花見をしたり、利用者の要望に応じていたが、コロナウイルス感染予防の為、中庭を散歩したり、ウッドデッキを歩いたりして戸外の空気にふれる支援をしている。	

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の要望に合わせて、外出時の買い物や頼まれたものの購入を家族に相談しながら対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があれば電話対応している。また、家族から電話を頂いた時には要望に添い電話を交わすことも対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気をする事で、季節を感じて頂く事は勿論のこと、季節の物を飾りつけることで目や鼻で感じれるよう工夫している。	リビングは吹き抜けと、天窗も開閉出来換気や温湿度も管理され床暖房により快適になっている。季節の飾り物で四季を感じ取ったり、中庭にも桜や梅、秋の紅葉を観ることが出来るなど五感を楽しめる共用空間になっている。職員の清掃により床も輝き清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールを共用空間としているため、個室は御本人が自由に出入り出来るよう解放し、どちらでも過ごせるように空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	より安心して暮らせるよう、入所時に自宅にて使い慣れたものを持参して頂き、施設入所後も継続して使用して頂いている。	エアコン・洗面台が常設されている。自宅で生活していた時と変わらないよう使い慣れた寝具や衣類を持ち込んでいる。ベッド側には立ち上がり転倒予防に衣装ケースを配置するなど工夫している。掃除は職員がしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御利用者を理解することで、ユニット内の安全を確保しながら個人に合わせ洗濯や掃除等、職員と共に行っている。		